

「宝塚宗教者・市民 平和会議」 第5回 講演会

講演題： **「憲法9条、この平和力」**
～ 世界の人々とのつながりの中で ～

講師：松浦 悟郎 司教（カトリック大阪大司教区補佐司教）

日時：2010年 2月27日（土）午後 2時～ 4時

場所：日本キリスト教団 宝塚教会

講師の言葉：20世紀は戦争の世紀と言われていますが、同時に、どうすれば戦争を回避できるかを真剣に考え、そのためにさまざまな努力をした世紀でもありました。その平和への願いの結晶ともいべき平和憲法が、今私たちの手の中にあります。しかし、それは日本のためだけではなく、アジア、そして世界の平和のために私たちに託された宝です。

もはや憲法9条を「守る」のではなく、世界のために「活かす」にはどうしたらいいのか、考え行動する時です。

【講師紹介】



1952年 9月28日 名古屋市生まれ

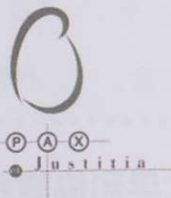
1981年 3月21日 司祭叙階

1999年 4月19日 補佐司教に任命

1999年 7月17日 司教に叙階

「日本カトリック正義と平和協議会」会長

「大阪宗教者九条の会」呼びかけ人



参加費 500円

どなたも自由にご参加ください。

主催：宝塚宗教者・市民 平和会議

宝塚市宝梅 1-4-46

日本キリスト教団 宝塚教会内

電話 0797-71-2314

教会地図



阪急逆瀬川駅から宝塚南口方向へ徒歩 8分
阪急宝塚南口駅から逆瀬川方向へ徒歩 10分
タクシー利用：「宝梅の教会」or
「支多々川沿いの山下橋交差点」

「憲法9条を世界の宝に・ピース9の会」設立趣意書



20世紀は、人類がめざましい進歩をとげたと同時に、戦争に明け暮れ、大量殺人を繰り返した悲しい世紀でもありました。21世紀こそ平和な時代にとの願いを誰もが持っていたのでしょう。が、2001年のニューヨークで起こった「同時多発テロ」と呼ばれる事件と、それに続く米国主導の「新しい戦争」と位置付けて始められたアフガニスタン攻撃は、世界を再び大きな緊張と試練の中に置くことになりました。このことは、貧困や抑圧という20世紀の負の遺産が未だ解決されていないのであり、直視しなければならないことを物語っています。

人間は誰もが平和に暮らしたい、互いに愛し合って生きていきたいと希望しているにもかかわらず、なぜこのようなことが起こるのでしょうか。人間はいつまで争いを繰り返すのでしょうか。平和をとりもどすために、私たちは何をしたら良いのでしょうか。このような問いが激しく起こってきます。

国連のアナン事務総長が次のように語りました。「平和の文化が必要なのです。戦争の文化、暴力の文化、刑罰と不寛容の文化に対して、平和の文化には見込みがないように思われることがあるかもしれません。(中略)それも、耐えがたいほど遅いプロセスであり、達成されたとしても、もろい不完全なものであるかもしれません。しかし、平和はわれわれにできることなのです」と。どんなに時間がかかっても、労力を費やしても「平和の文化」「愛の文明」をつくらなければ、根本的な解決はありません。

日本に目を向けてみます。高度な技術や経済力を持つ日本は、世界平和のために多くの役割を果たすことができるし、その責任があります。何よりも、「平和の文化」のために働ける貴重な立場にあることを自覚する必要があります。なぜなら、平和憲法を持っているからです。そ

の中では恒久の平和を願って戦争をしない、軍隊を持たないことを高らかに謳っており、それゆえに、国際社会の中で和解に向けた調停や平和への役割では特別な地位を占めているはずなのです。しかし、現実にはどうでしょうか。そのようなリーダーシップを国際社会からはほとんど期待されていないのが現状であるばかりか、その貴重な平和憲法を踏みみじめる実績をひたすら作り、後は9条さえなくせば完全に戦争できる国に整えられてしまうところまで来ているのです。9条がなくなると、「有事」のためという口実で、次々と戦争ができる体制が作られ、民間人を戦争に巻きこんでいくことは目に見えています。

今ならまだ間に合います。かろうじて9条が生きているからです。今、世界の人々が憲法9条を注目し始め、それを残してほしいと願う声が高まってきています。「テロと戦う」という理由さえあれば、武力攻撃も戦争もまかり通りつつある国際社会の中で、9条は「平和の文化」を築くために貴重なしるしと希望を人々に与え続けています。他の国では、このような憲法を作りたいと望んでもほとんど不可能で、「いつか実現してほしい夢」となっているのです。アメリカのオーバビー博士は「憲法9条の会」を作って訴えています。もはや、日本だけの憲法9条ではなく、世界の平和のための貴重な宝となっているのです。

憲法9条はまだ私たちの手元にあり、手放していません。皆さん、一緒に憲法9条を守り、その精神を平和へのメッセージとして世界にも発信し、それを実際のものとするために何らかの行動を起しませんか。このことが本当の平和と人間の幸福につながる「平和の文化」をつくる道と信じるからです。

「憲法9条を世界の宝に・ピース9の会」

代表 松浦悟郎

2002.5.3 発足

「日本カトリック正義と平和協議会」ってなんであが…

1967年、教皇パウロ六世の呼びかけにより、ヴァチカンに「正義と平和委員会」が設立され、全世界の司教協議会にたいしても同じ趣旨の委員会を設けるようにという要請が出されました。それは、貧困、抑圧、差別のなかで、人間としての当然の権利を奪われ、苦しみの叫びを上げている多くの兄弟姉妹に愛をもって応えるためでした。日本でも、1970年「正義と平和司教委員会」が発足し、これと平行して信徒による自主的な活動も始まりました。さらに74年、これら司教による委員会と信徒の活動を一本化し、今日の「日本カトリック正義と平和協議会」がスタート。世界、特にアジアにおける社会正義と平和の実現のための活動を開始し、現在にいたっています。